

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	リエゾン市川行徳		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 8日		2024年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2024年 10月 15日		2024年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日		年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)		(回答数)
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動を楽しみながらお子さま同士のかかわりも学ぶことができる	・お子さまひとりひとりがリエゾンに来ることを楽しみだと思えるよう、メニューを工夫し、楽しく飽きのこないレッスンを提供できるようにしている。 ・器械体操や球技の練習を行う中で個々の運動技能の向上を図るとともに、少人数でゲームを行うことでお子さま同士のかかわりや協力を学べるようにスタッフが仲介している。	・今後もお子さまが楽しめる運動メニューや、技能の向上を図ることができる練習方法の充実を図っていく。 ・運動だけでなく、順番決めの話し合いや作戦会議を通してお子さま同士が直接かかわり話す機会を積極的に提供していく。
2	・お子さま自身が成長を実感できるだけでなく、保護者さまも成長を目の前で見ることができる	・お子さまが「できた!」を実感できるようにスモールステップで練習を重ね、上手にできたときは頑張りを認め、喜びを共有することで達成感を味わえるようにしている。また、保護者さまもレッスンを直接見ることができるので、保護者さま自身もお子さまの成長を目の前で感じることができる。	・より成長を実感していただけるよう、お子さまに合わせた練習方法を考え、実践していく。 ・レッスンを見ていただくだけでなく、フィードバックを通じてレッスンの内容や意図、お子さまのご様子を直接保護者さまにお伝えしていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・安全性(ケガのないレッスン)の確保	・転倒や衝突による怪我やアクシデントはどうしても起こり得るが、それをどう防ぐかを考え、常に策を講じていく必要がある。	・レッスンに取り組む中で転倒を未然に防ぐ身体づくりをするとともに、スタッフ間で環境整備を行う。また、スタッフ間でヒヤリハットを確認することでアクシデントの防止に努めていく。
2	・支援の連続性について	・児童発達支援であるため、早期療育ができるというメリットがある一方で就学前に支援が終了するという課題もある。	・放課後等デイサービスとの縦のつながりができるよう、相談支援事業所の相談員の方々との関係を構築し、情報共有や相談ができるようにしていく。 ・地域の連絡会やケース会議に参加することで、放課後等デイサービスだけでなく、様々な社会資源とつながる機会を設けていく。
3			